

野洲市民病院整備運営評価委員会

令和3年1月14日

議題

- (1) 野洲市民病院整備事業の現在までの経過と課題について
- (2) 評価委員会の役割について
- (3) 専門部会の設置と役割、部会員の選任について
- (4) 市立野洲病院施設の現状について

議題(1)

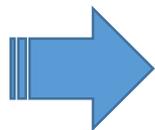
野洲市民病院整備事業の
現在までの経過と課題について

整備方針の転換（市長選挙）

『駅前市有地に120億円という高額な費用を使い、病院を整備することに対して反対する。』

→ 整備計画を大幅に見直し、将来の財政負担を軽減する。
また、持続性のある地域医療の確保を図る。

現計画	対案
駅前市有地に移転新築	現地建替え (現病院敷地内で診療を並行して継続)
整備費用総額約120億円	半額程度の整備費用を想定
令和5年度中の開院	早期の開院を目指す
施設規模 179床 延床面積約14,300m ²	現計画と同規模を想定



- ◆ 駅前の市有地は、税収を生み出す場所として利活用を図る。
- ◆ 初期投資を抑制することで、後年度の病院事業会計に対する操出金の軽減を図る。（一般会計の財政負担の軽減）

方針転換に関する課題

➤施設・設備の老朽化、狭隘な敷地

野洲病院支援継続可能性に関する提言書（H28.3.14）

⇒早急な改修（修繕）対応が必要な状態

工事期間中の仮設計画

➤駐車場の確保

来院者用駐車場：現状 約130台（敷地内60台、敷地外70台）

⇒慢性的な駐車場不足

工事期間中における駐車場の確保

➤市議会における議論

野洲市民病院実施設計業務の継続・完了を求める決議（R2.12.18）

⇒設計業務の中止に対して、継続を求める意見

➤現計画の清算

社会資本整備総合交付金（H29～R2交付額：153,713千円）

病院事業債（H29～R2借入額：1,342,113千円）

⇒交付金返還、起債繰上げ償還の可能性

現計画で予定していた交付金総額10.5億円（上限額）は受けられない可能性

野洲病院支援継続可能性に関する提言

(平成28年3月14日)

➤目的

野洲病院の施設・医療機能・経営運営状況に係る総合的な調査結果等を基にして、市が支援を行うことにより、野洲病院によって、今後も市民の中核的医療機能を安定的に確保し得るのかについて、検証と評価を行う。

◆ 野洲病院の施設（建物、機器等）性能について

（老朽化、狭隘化と患者アメニティ、安全性（耐震性能等））

➤野洲病院支援継続可能性評価委員会（敬称略、所属・役職は当時のもの）

委員長 今中 雄一 京都大学大学院医学研究科医療経済分野教授

委員 及川 清昭 立命館大学理工学部建築都市デザイン学科教授

委員 原田 未央子 弁護士

委員 田中 正志 公認会計士・税理士

➤調査業務受託者

株式会社 病院システム

◆評価結果概要（資料3から抜粋）

制約の多い現在地での建替えは非常に困難で、敷地の拡大も極めて困難であることから、医療機関としての継続を前提とした場合、移転建て替えによる全面的更新に依らざるを得ないものと考ええる。（資料3 P8）

野洲病院の施設は、狭隘さと老朽化とともに顕著で不具合も多い状態であり、また、構造及び機能上、耐震工事の実施が困難な上、制約の多い現在地での建替えは難しく、敷地の拡大も極めて困難な状況です。（資料3 P9）

議題(2)

評価委員会の役割について

評価委員会の役割

➤委員会開催の目的

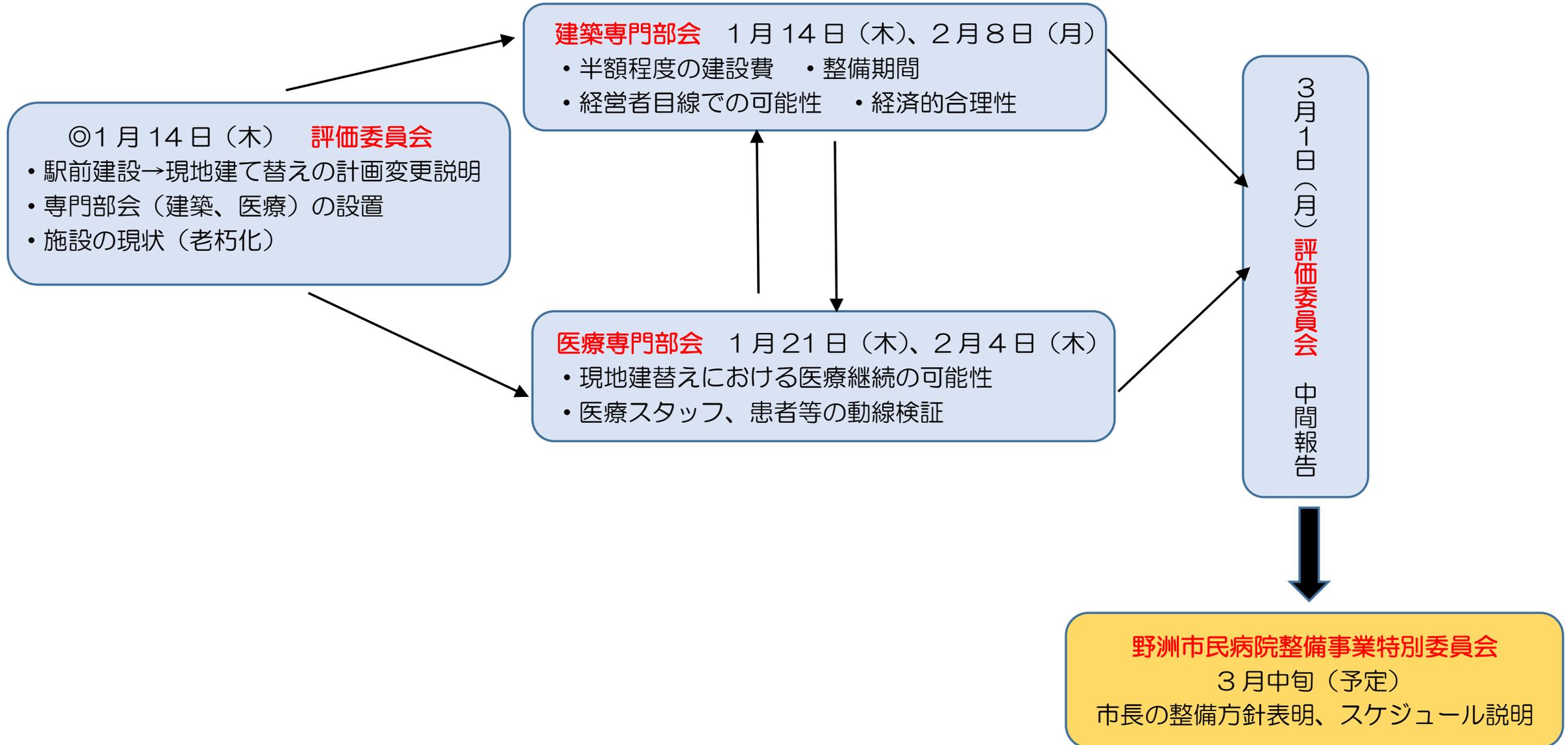
現地建替え案に対する実現可能性の検証を行う。

➤委員構成：15人以内

- (1) 医療に関する学識経験を有する者
- (2) 建築に関する学識経験を有する者
- (3) 病院整備事業に関係する機関の関係者
- (4) 市長が特に必要と認める者

※ これまでの委員構成から一部見直しています。

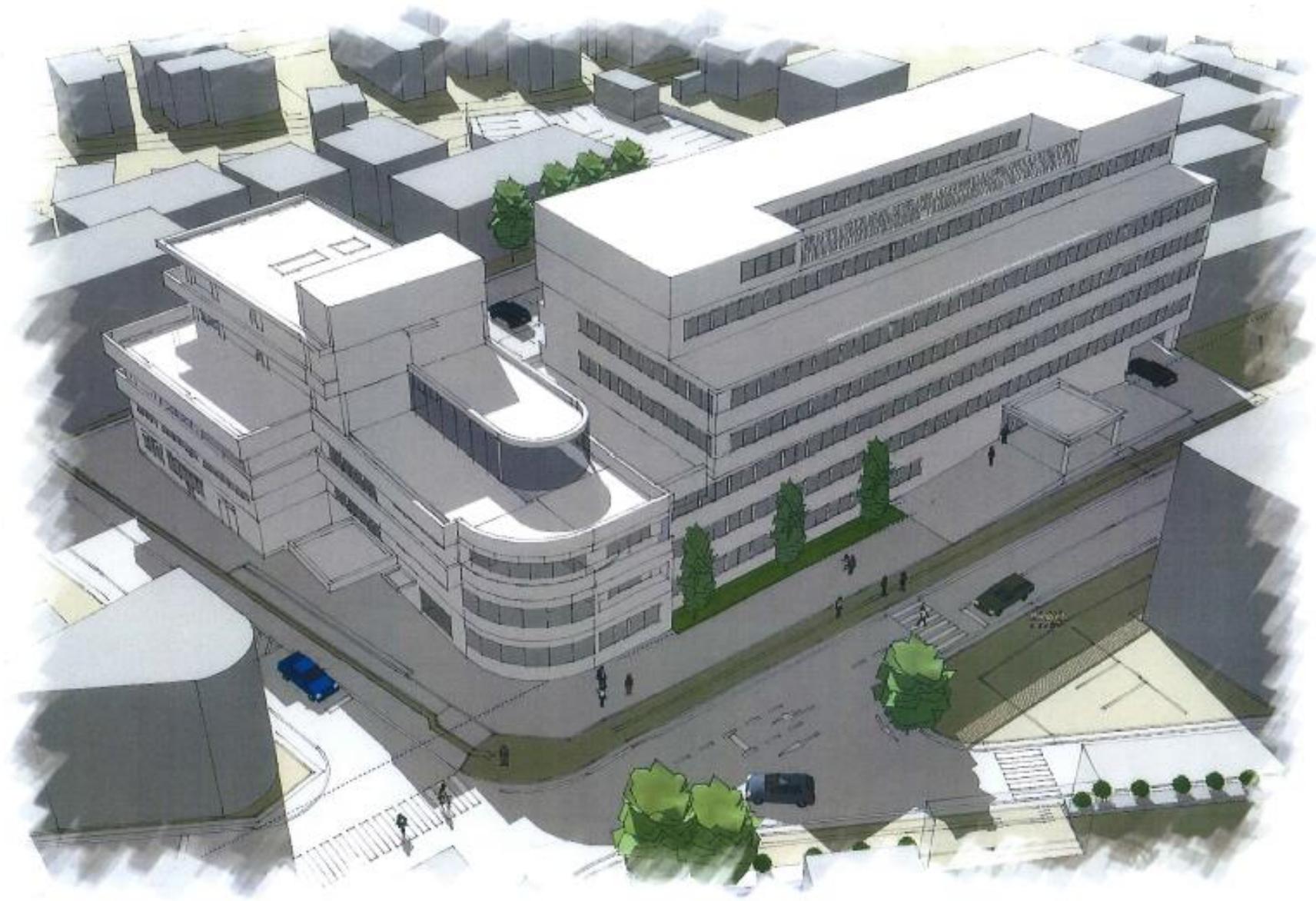
検討の流れ



今後の予定（令和2年度末まで）

- ◆ 1月14日(木)：評価委員会
経過説明、専門部会の設置等
- ◆ 1月14日(木)：第1回（仮称）建築専門部会
現地建替案の検証（費用、工期、工程、経済的合理性等）
- ◆ 1月21日(木)：第1回（仮称）医療専門部会
現地建替案の検証（スタッフ・患者等の動線、医療継続等）
- ◆ 2月4日(木)：第2回（仮称）医療専門部会
現地建替案の検証結果（専門部会案）まとめ
- ◆ 2月8日(月)：第2回（仮称）建築専門部会
現地建替案の検証結果（専門部会案）まとめ
- ◆ 3月1日(月)：評価委員会
現地建替案の検証結果まとめ
- ◆ 3月中旬（予定）：市議会野洲市民病院整備事業特別委員会
病院整備の方針説明

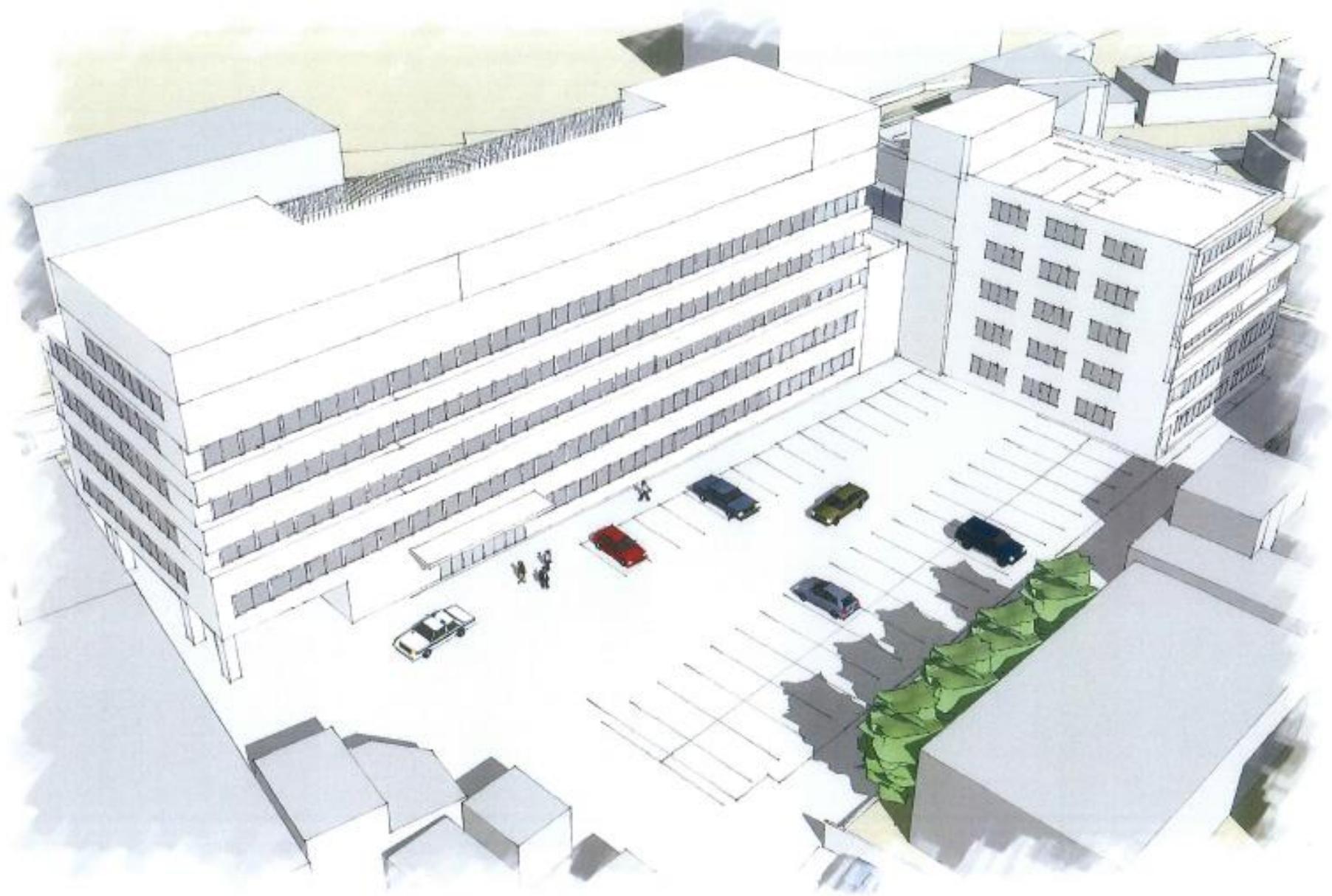
検証の対象となる案



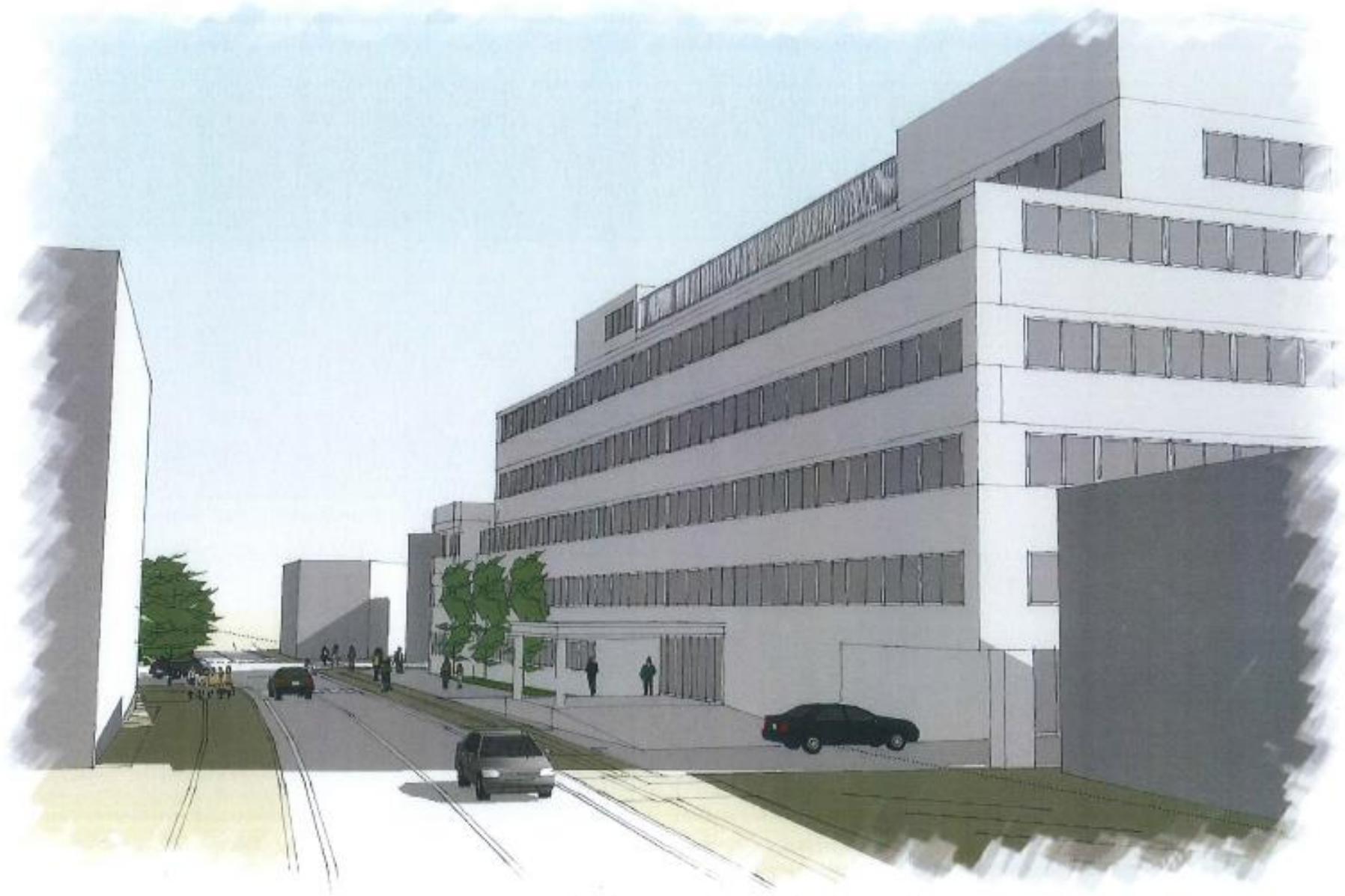
北側 俯瞰イメージ



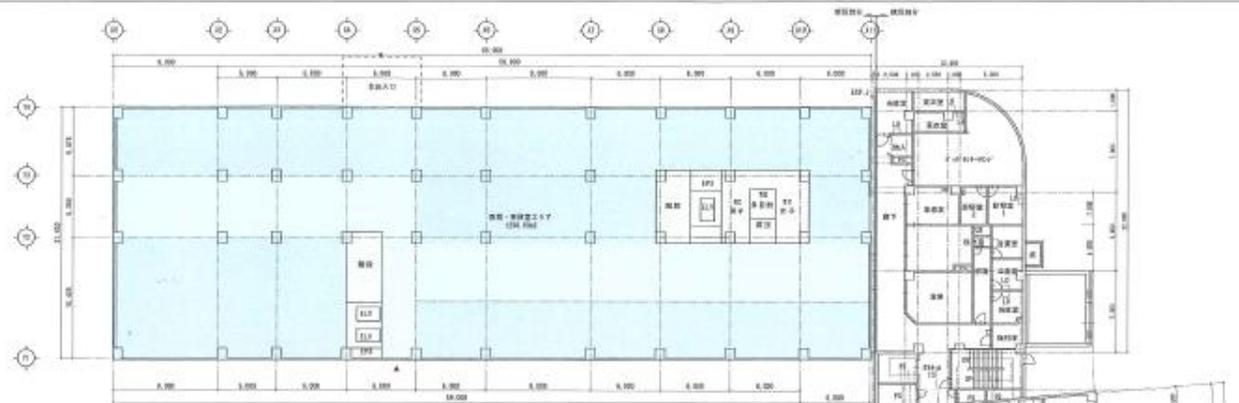
東側 俯瞰イメージ



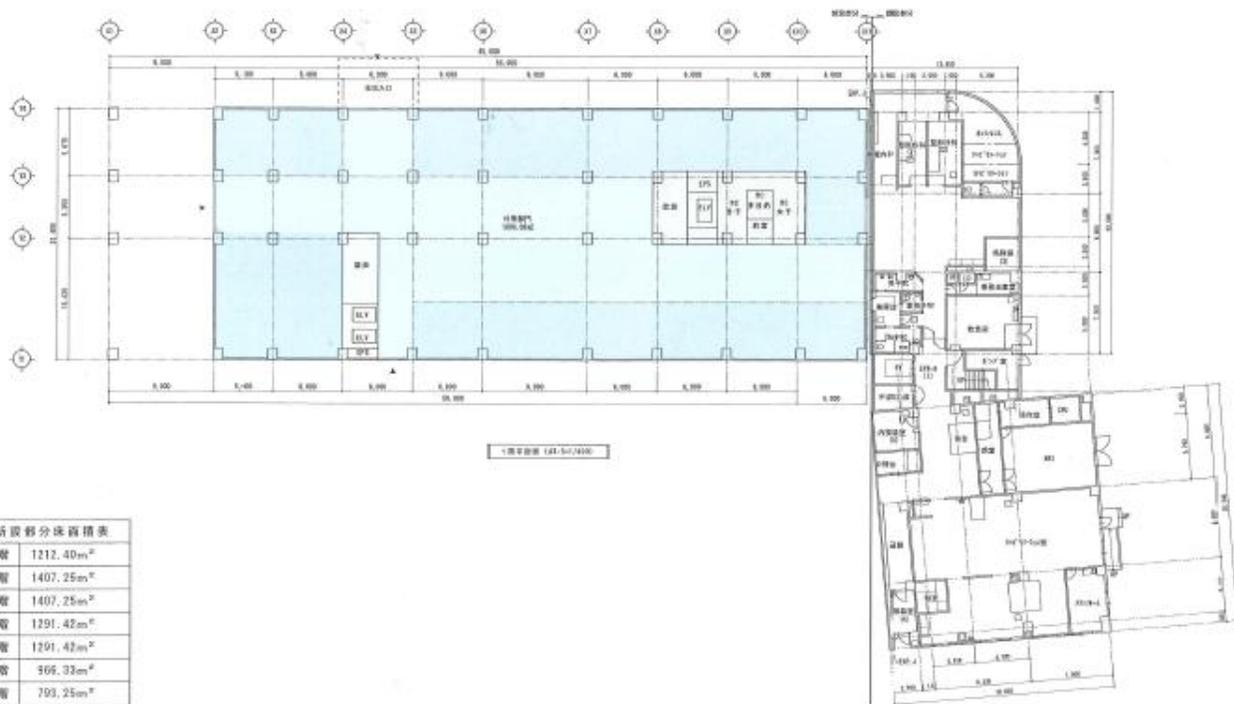
南側 俯瞰イメージ



西側 前面道路からのイメージ



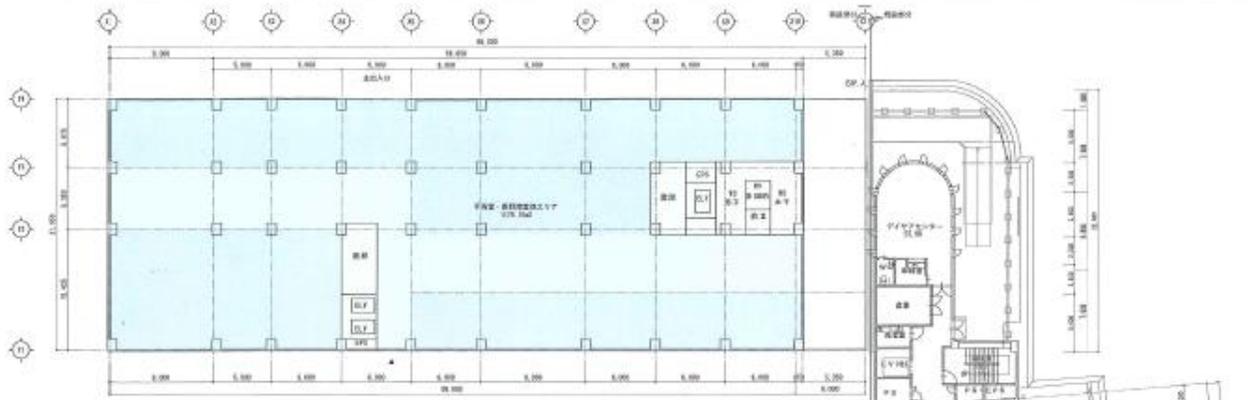
7樓平面圖 (42.5:1/1000)



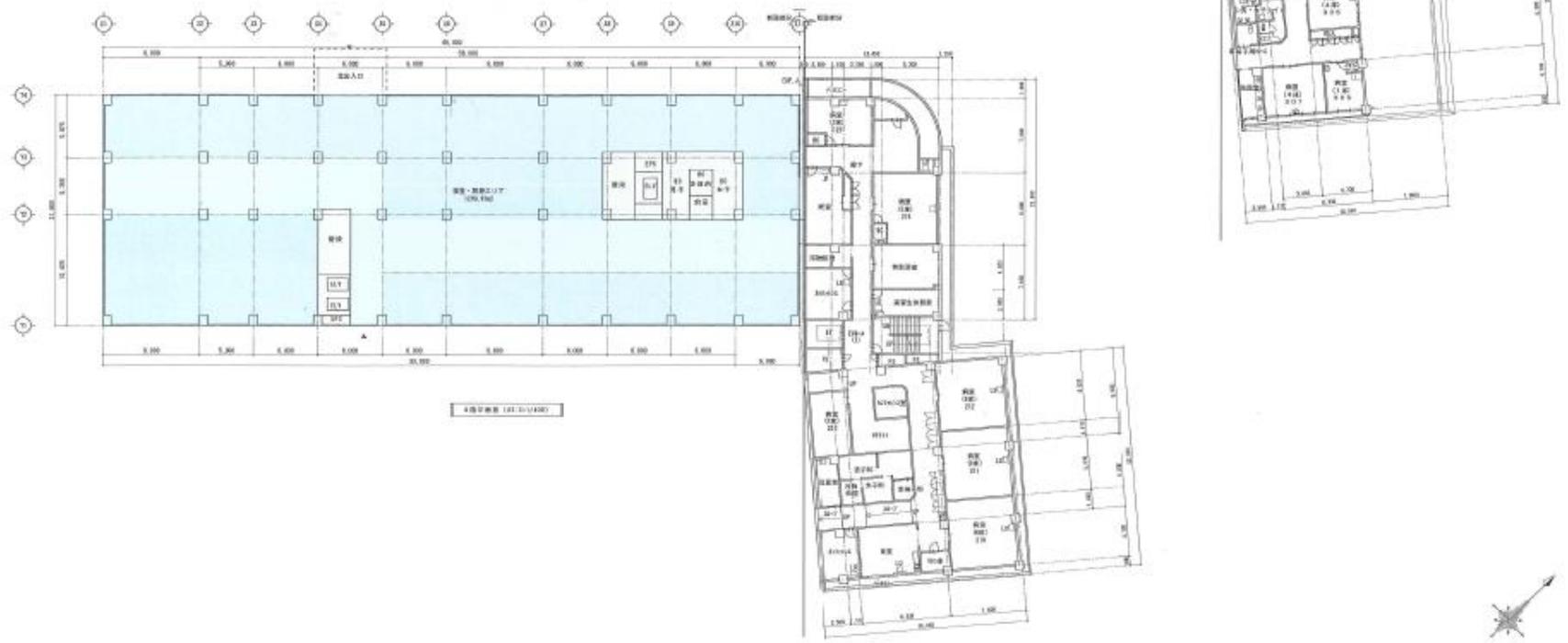
1樓平面圖 (42.5:1/1000)

新設部分樓層積表	
1層	1212.40m ²
2層	1407.25m ²
3層	1407.25m ²
4層	1291.42m ²
5層	1291.42m ²
6層	566.32m ²
7層	793.25m ²





4樓中庭 (1/10-1/10)



4樓中庭 (1/10-1/10)

議題(3)

専門部会の設置と役割、部会員の選任について

実現可能性の検証

- 現地建替えに関する実現可能性について、詳細な検証を経た上で事業実施の判断を行う。
 - 建築及び医療の専門家による検証
 - 市民病院整備運営評価委員会に「専門部会」を設置し、より専門的な見地から検証を行う。
- (仮称) 建築専門部会
 - ◆ 現施設の状態（劣化度、敷地、配管・配線、仮設計画等）
 - ・・・ 図面確認、現場検証
 - ◆ 概算費用及び工期の検証
- (仮称) 医療専門部会
 - ◆ 現地建替えにおける医療継続の可能性（工事を行いながらの医療提供）
 - ・・・ 医療スタッフ、患者等の動線
 - 工事期間中の騒音、振動等が医療提供に及ぼす影響

専門的分野の観点からの検証

- 野洲市民病院整備運営評価委員会に専門部会を設置
→ 建築、医療の観点から現地建替えの実現性を検証
- 目的
 - 現地建替案に関する実現可能性の検証
 - (仮称) 建築専門部会：技術的検証
 - (仮称) 医療専門部会：医療継続の可否を検証
- 委員構成
 - 医療分野の専門家
 - 建築分野の専門家
 - 病院整備事業に関係する機関の関係者
- 開催スケジュール
 - 回数（予定）：評価委員会2回
専門部会各2回
 - 時期（予定）：第1回を1月中旬
年度内（3月上旬）に検証結果まとめ

現計画地の見直し(現地建替え)

➤ 前提条件

- ① 医療提供の継続
- ② 建築費概ね半額
- ③ 早期の開院を目指す

《現地建替工程案》

仮設棟整備→西館解体→東館の機能を併せた西館の建替
→東館解体→駐車場整備

※北館は存続、工事期間中の診療は仮設棟で継続

東館：S55築 延面積4,147.40m² 手術室、放射線、調理室、病棟（91床）等

西館：H3築 延面積2,996.74m² 外来、管理部門、病棟（50床）等

北館：H11築 延面積3,314.28m² 健診部門、透析、リハビリ、病棟（58床）等

議題(4)

市立野洲病院施設の現状について

北館 1階 整形外科前ロビー

天井

給湯配管劣化による漏水



西館3階 病室113～120号室

壁クラックと窓ガラスコーキング劣化切れ
により**横雨時漏水発生**
令和元年、一番ひどい116号117号118号
付近の外壁部分補修済
壁紙とボードは吸水でボロボロの状態。
応急的に市販の貼れる壁紙を貼って対応中。

患者の入院環境としては望ましくない状況





東館 3階と西館3階との渡り廊下

大雨時雨漏れ発生。修理済。

【参考】

増築による接続（北館と東館、西館と東館）で当該スロープが3か所あり。

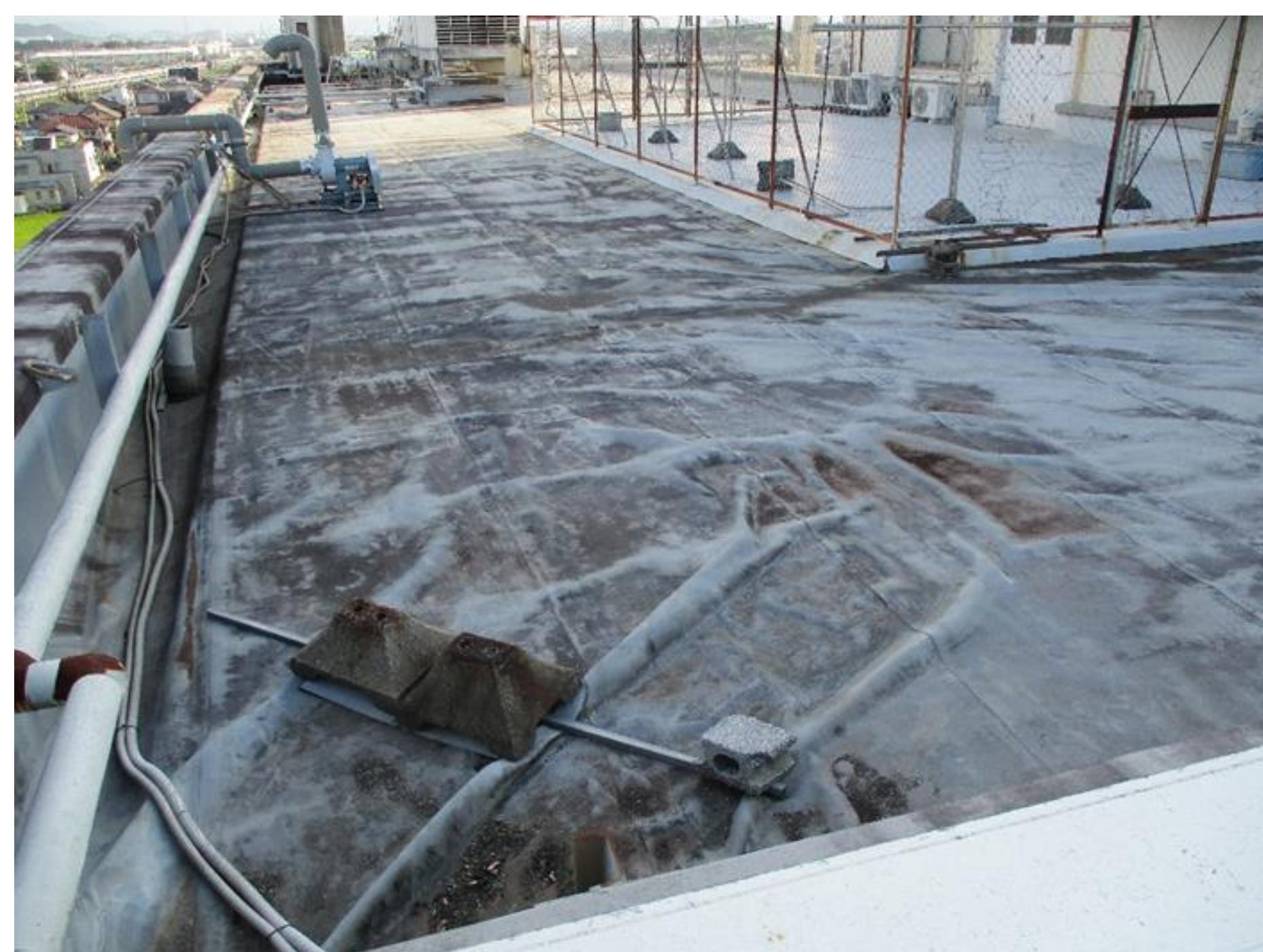
※勾配により給食配膳車の運転が重く、課題となっており過去に骨折労災事故が発生している。



東館 5階 病棟 廊下

台風時、降り方により雨漏れ発生

屋上防水全面改修しかなかく未修理



東館 屋上

防水シート劣化

手前の重しで雨漏れ軽減している。